

短歌 全14首

手拭で夫と揃ひの夏マスク縫ふてはみたがちと気恥づかし
 古き繭い出し蚕は桑を食べ大きく育ち真白き繭に
 あめんぼはスケーターのよう田の面を音せず舞てそよ風と去り
 コロナ収束祈る花火よ元素燃え色付く科学の絵画かな
 なつかしいー孫と一緒ににおこうしんすもヨーグルベビラーメン
 久々のラジオ体操庭に出で新緑の風心地好きかな
 嫁と娘に祝い贈らる母の日よ歳を重ねて感謝の尽きず
 椋社から林道ドライブ藤倉え志賀坂神流鬼石尻玉と
 この春も日本の空に燕来て人少なきを如何に思ふや
 報道の美人レスラー自死つげるまだまだ若い社会問題
 廻り来る母の命日コロナにて一人で墓参無言の対話
 緊急の宣言解除と言う総理今後の課題多難山積
 何処から風の土産か庭陰に鉄線の花を見つげときめく
 人あふれ陽光まばゆき善光寺の旅より一年自肅の五月


皆野 引間 千鶴
 皆野 村田ハツ代
 皆野 藤原マキ子
 皆野 中二年 太幡琉美花
 皆野 石原 達也
 皆野 新井 民子
 皆野 下日野沢 豊子
 皆野 戸塚喜久雄
 皆野 打木 昭廣
 上日野沢 四方田利男
 下日野沢 新井 節子
 皆野 根岸 詩子
 皆野 新井 葉子
 三沢 眞下 杏子

榎本順江選 投稿数 12句

花の命なげく美美子の古都を行く
 (評作家、林美美子の出世作は自身の日記をもとに書かれた「放浪記」。舞台でも長年上演されています。「花のいのちはみじかくて苦しきことのみ多かりき」は、苦勞の多い人生を短い命の花に重ねた名歌です。四十七歳で亡くなった美美子の生涯を思いつつ古都を辿る作者です。二句目、せせらぎと笛のような美声の河鹿蛙との素敵なハーモニーが、畑の作者に届きます。作業が捗りそうです。中七が情景を際立てる秀句です。三句目、カフェの二階まで延びた蔓バラが咲き満ち、道行く人が歩を止めます。バラに誘われて客になってしまいたいそう。
 畑の吾へせせらぎを縫う河鹿笛
 三沢 眞下 杏子
 二階までカフェの蔓バラ咲き満ちて
 先生も生徒もマスク夏の雲
 皆野 引間 千鶴
 夏兆す自肅の日々の長電話
 皆野 中二年 太幡琉美花
 皆野 根岸 詩子
 ちよろちよると水光り落つ植田かな
 皆野 藤原マキ子
 曾孫の手借りて玉葱収穫す
 郭公の初音に父の偲ぶるる
 皆野 下日野沢 浅見 豊子
 入梅や髪染めて鬱払拭す
 コロナ禍のニュースは暗き梅雨の日々
 皆野 上日野沢 四方田利男
 老鶯の声誉む客の来たりけり
 三沢 新井 葉子
 三沢 新井 民子

俳句・短歌を募集
 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名・電話番号を明記して
 みらい創造課までお寄せください。
3日必着
 1人1句、1首に限ります。

1歳になる赤ちゃんを募集しています



ご応募いただいた赤ちゃんは、全員掲載します。誕生月の前月10日までに、みらい創造課窓口(写真をご持参ください)または、町ホームページからお申し込みください。

8月号の締め切りは、7月10日(金)です。

問合せ みらい創造課 ☎26-7334

1歳のお誕生日おめでとう

てるゆき
照之くん
 下田野区
 大澤 博和さん
 恵美さん



Happy Birthday

いっぱい食べて、いっぱい遊んで、大きく育ててね!

今月の題字
 河野 聖那さん
 国神小6年

児童の見守り放送
 藤松 俊太さん
 三沢小6年